

花だより

第105号 春季刊



題字/竹内容子様
(昭和12年生まれ 羽衣デイサービス)
2022年(令和4年)4月21日発行

発行 社会福祉法人 恵比寿会
フェローホームズ  Fellow Homes

仲間の家・森の家・高松の家
フェローホームズデイサービスセンター
フェローホームズヘルプサービス
グループホーム・ヴィラ・フェローホームズ
フェローホームズアフタースクール
森の子ナースリー(企業主導型保育所)
042-523-7601
フェローホームズ富士見相談センター
042-526-1353
羽衣地域福祉サービスセンター
フェローホームズ羽衣相談センター
立川市南部東はごろも地域包括支援センター
042-523-5612
森の子こども園
042-538-0729
しばさきのいえ子育てひろば
042-512-7704
立川市柏第四学童保育所
042-537-8555
立川市高松第三学童保育所
042-512-9703
立川市砂川七番学童保育所
042-537-7550
立川市柴崎第二学童保育所
042-512-8202

ご利用者の 持てる力を活かす

恵比寿会が取り組んでいる「8つの基本ケア」のステップ2『床に足をつけ、持てる力を活かす(生活リハビリ)』では、プロジェクトチームを発足し、モデルグループを設けて、介護スタッフが中心となって取り組んでいく体制をつくりました。プロジェクト名通称は 82(はちに) プロジェクトです。現在の各施設の様子を紹介します。

フェローホームズ仲間の家

82プロジェクトではご利用者の持っている力を引き出すために、椅子移乗(車椅子から椅子

子に座り替える)、しゃがむ体操、体幹伸ばし体操などの生活リハビリを実施しています。

仲間の家では2名の方(Aさん・Bさん)を対象に取り組んでいます。

以前Aさんは歩行器を使用して歩行されていましたが、病院に入院したことがきっかけで、車椅子での生活となりました。

退院後の体力が回復し始めたころから椅子移乗を始め、立つ姿勢を取る機会が増え、そこから生活リハビリとして、しゃがむ姿勢・尻上げ体操を行い、ホールでは体幹伸ばし体操・ふくらはぎ体操に加え、短い移動から歩行器使用を再開しました。



車いすから椅子に座り替える際に足の裏全体で踏ん張ることを日常の中でくり返します。

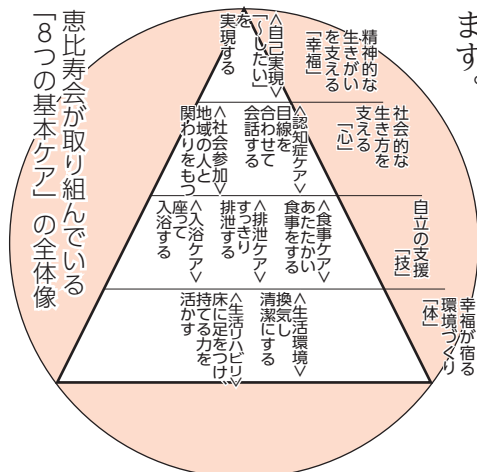
次第に体力、足の筋力がついていき、今では歩行器が中心の移動ができるようになりました。

またBさんは以前から椅子に移乗し食事などを召し上がっていましたが、筋肉の緊張が強くなり、股関節や膝が曲がりにくい状態でした。生活リハビリとして座る姿勢を保持する訓練、ホール



風船バレー

では風船バレーに取り組んだところ、以前よりスムーズに膝が90度に曲がるようになりました。



Facebookもチェック



<https://m.facebook.com/ebiskai/>



フェローホームズ森の家

生活習慣の中での些細な行動（トイレやリビングに移動する、椅子に座る、椅子から立つ等）を少し長くしたり、回数を少し増やす等して、最期まで自立した生活を送れるよう支援することを目的とした82プロジェクトが始まりました。森の家からは2人のご利用者の取り組みをご紹介します。

H様は以前はご自身でお食事を召し上がっていましたが、日中に寝てしまうことが多くなり、食事の際も寝ている事があるため、ご飯を食べる量が減っていました。

今回のプロジェクトの取り組みで、ベッドから車椅子に移る際にベッドに少し長く（10秒程度）座っていただいたり、介護スタッフが支えつつ、足にしっかりと力を加えていただいた状態でベッドから車椅子への移動を行ったりしました。その結果、寝てしまう事が減り、毎食では



ベッド上で座る姿勢を保つ練習をします。

ないものの、ご自身で食事をしていただける回数が少しずつ増えました。それだけでなく、座っている姿勢で身体が傾く回数が減りました。

二人目のK様はご自身で杖を使用し、一人で歩いていましたが、あるご病気から足を痛がるようになり、ほとんど歩かなくなってしまう、生活のほとんどを車椅子で行うようになりました。

今回のプロジェクトで、ベッドに腰かけていただき、少しお尻をあげる体操やリビングでの車椅子から椅子への移動、少しの距離を、杖を使用し歩いていた取り組みを行ったところ、以前のようにご自身で歩けるようになりました。また、お風呂も椅子に座ったまま入るお風呂ではなく、ご自身で浴槽を跨いで入るお風呂へと変更することができました。



再び杖を使って歩けるようになりました。

フェローホームズ高松の家

高松の家は、ご利用者の生活リハビリのポイントを動画に撮って、全スタッフで共有しています。また、「車椅子で過ごす」ことをスタッフが体験できるように、体に合っていない車椅子を休憩場所に設置し、各々が車椅子上で食事を食べたりしています。これがご利用者の気持ちを考えての良い機会になっています。

82プロジェクトの取り組みで、車椅子から椅子に座り替えてお食事を召し上がっていたのですが、それが「普通の光景」であると、スタッフの意識もだんだん変わってきました。また、ご利用者がご自身の力で食事を召し上げる量が増えるなど、プラスの変化が見られ始めています。



ご自分に合ったテーブルとイスでお食事されています。



スタッフが車いすを体験し、ご利用者の気持ちに寄り添います。

私が大切にしているクレド

恵比寿会には日々の取り組みの原点として行動の基本原則「7つのクレド」があります。今回はサービス長に特に大切にしているクレドについてインタビューしました。

「一瞬に心をこめて。」



森の家サービス長 井川 浩輔

私達も含め、誰にでも明日が必ず来るわけではありません。それはご利用者のように高齢になればなるほど、寿命という制約があります。

勤務をしていると、その時々が一瞬に過ぎ去ってしまいますが、だからこそ心を込めて接することを意識しています。高齢者介護の道を選び、実際にお看取り介護を重ねる中で、強く思い、大切にしているクレドの一つです。

恵比寿会の7つのクレド

- 1 笑顔からはじめよう。
- 2 挨拶にひと工夫。
- 3 聞こえ、伝えよう、話し合おう。
- 4 叶えるために考える、動く。
- 5 一瞬に心をこめて。
- 6 チームで乗り越えよう。
- 7 絆をつなげよう、絆でつながろう。

新しい出会い&スタートの春！

新卒スタッフのご紹介

Q1・私のプチ自慢

Q2・入職の動機

Q3・こんなスタッフになりたい！

八重樫さやさん(介護スタッフ)

Q1 ご飯を食べるのが早い！



Q2 法人説明会に参加した際のスタッフの方々の人柄に惹かれたのと、法人で実際に行われた事例を聞き、ご利用者の思いを大切にしながら支援を行っていることに魅力を感じ、私も一緒に働きたいと思いました。

Q3 「この人になら支援をしてもらいたい」と思っていただけのような技術を提供できるスタッフになりたいです。

野村真之さん(介護スタッフ)

Q1 一回で車の駐車が出来る！



Q2 自分のコミュニケーション力を活かし、ご利用者の役に立ちたいと思ったのがきっかけです。

また、学生もアルバイトができ、早くから介護の仕事を学べることも魅力に感じました。

Q3 仲間と支え合い、ご利用者に寄り添えるスタッフになりたいと考えています。

レティエンダットさん(介護スタッフ)

Q1 できるまで諦めないこと！



Q2 ベトナムの大学で医療を学んだので、日本ですべてを活かしたいと思っていました。日本語学校時代の先生からフェローホームズを紹介されました。アルバイトとして施設で働いてみると、ご利用者がいつも笑顔なのが印象的で、将来はここで介護の仕事をしたかったです。

Q3 良いスタッフ、周りの人から信頼されるスタッフになりたいです。ご利用者と信頼関係を築きながら介護したいです。

ブイティンホアンさん(介護スタッフ)

Q1 激辛ラーメンが食べられる！



Q2 来日してから、今までフェローホームズでアルバイトを続けていました。フェローホームズは外国人の私でも働きやすく、自分に合っているという思いがあり、また、ここで働けば、安定した生活が送れると考え、フェローホームズへの就職を決めました。

Q3 いつでも笑顔で、ご利用者を援助できるスタッフになりたいです。

ダンゴル ラビナさん(介護スタッフ)

Q1 弟と妹の世話が得意です！



Q2 法人説明会のスタッフがみな笑顔で、親切に説明してくれたので、だんだんフェローホームズが好きになりました。面接で施設に来たときに、他の施設よりきれいだなと感じました。また、保育施設があるのも魅力的でした。

Q3 信頼されるスタッフになりたいです。

大島玲奈さん(栄養科スタッフ)

Q1 水泳で都大会出場！



Q2 ご利用者と関わる仕事や、厨房業務を経験できることに惹かれました。また、施設見学の際に、管理栄養士の方や調理の方が明るく、笑顔でお仕事をしており、雰囲気がいいたと思います。

Q3 ご利用者に寄り添い、これからの生活をより豊かにできるような献立作成や食事提供ができるようなスタッフになりたいです。



4月1日に入職式を行いました。

地域の身近な 相談窓口として

フェローホームズ

富士見相談センター

富士見相談センターは、立川富士見六郵便局の隣にある、居宅介護支援事業所です。スタッフは5名で、全員女性です。

感染症対策の観点から、三密を避けるために坂下（3名）と坂上（2名）に分かれ、業務を行っています。ZOOMで朝礼や会議を行い、訪問の前後でお互いの事業所に立ち寄る等、こまめに連絡を取り合っています。

以前とは違う生活様式となり、2年が経ちましたが、困難な状況においても、創意工夫をし、新たなチャレンジをする力が求められている今、私たちもみんなで意見を出し合い、職場環境を整え、日々の業務を行っています。

地域の身近な相談窓口

富士見相談センターは富士見町住宅の中にあり、地域の身近な窓口として相談を受け付けています。「施設を探し

ている」「親の介護はどうしよう」「杖などの福祉用具を使ってみたい」など、介護に関わるどんなことでもお気軽にご相談下さい。

地域の皆様との連携

昨年11月に2年ぶりに「富士見町六、七丁目の民生委員懇談会」を開催しました。人数を制限して、参加人数は12名と小規模でしたが、地域の近況や課題を意見交換でき、有意義な会となりました。顔と顔の見える関係の大切さを改めて感じると共に、地域に住む方々と関わり、情報を共有し、連携、協力し合って、地域の福祉に貢献できる富士見相談センターでありたいという思いを強くしました。

ケアマネジメントの

スキルアップを目指して

法人内のもう一つの居宅介護支援事業所「羽衣相談センター」と合同の勉強会や事例検討会を月1回行っています。最近では、成年後見制度や、デイサービスでのリハビリについて学びました。

その他、立川市介護支援専

門員研修会現任研修などの各種外部研修にも参加し、福祉用具を活用した自立支援などについて、理解を深めました。ご利用者の「ありたい姿」を引き出し、生活の質の向上を目指せるような支援、また自分自身で生活の課題を解決できるお手伝いができるように、これからも必要なスキルを磨いていきます。

ご利用者・ご家族の声を大切に毎年、事業所の業務や満足度についてご利用者、ご家族にアンケートを行っていただきます。いただいたご意見を真摯に受け止め、改善につなげ、より良い支援ができるよう努力しております。常にご利用者の声に耳を傾け、寄り添い、望む生活に近づけるお手伝いをしていきたいと思えます。



私たちがお迎えします。
お気軽にお立ち寄りください。

ボランティアさんありがとう

知久良夫様(車椅子清掃)

清谷善子様(オンライン椅子ヨガ)

「寄付を有難うございました」

2021年10月～3月(順不同)

宮沢榮作様 中村保彦様

石坂秀江様 森田初江様

須崎文子様 矢島 茂様

恵比寿会後援会だより

2021年10月～3月に会費を頂いた方を報告します。(順不同)

堀野二雄様 堀野直美様

志村広一郎様 荻田武男様

後援会会員募集中

「ひとつは全てのために、全てはひとつのために」社会福祉法人恵比寿会の理念のもと、法人が運営する各事業を側面から支援、協力するために、是非、恵比寿会後援会への新規ご入会を心からお待ちしております。

会 費…一口 三千元

基本活動…年一回車椅子等備

品の寄贈

問合せ先…社会福祉法人

恵比寿会

後援会事務局

☎ 042-523-7601

ブラックボードで お迎え！

羽衣地域福祉サービスセンター デイサービス

初めは何を書いたら良いかと試行錯誤を続けていましたが、「今日は何の日・毎日が記念日」の記入をしたところ、「こんな記念日があるの？おもしろい！」というお声がたくさん届きました。そこから毎日、記念日等を調べて記入をしています。ブラックボードの内容を几帳面にメモする方もいらっしゃるくらい、ご利用者の楽しみになっています。法人のフェイスブックにも定期的に載せておりますので、ご興味のある方はそちらもぜひご覧ください！



ご利用者に好評のブラックボード

ご存じですか？ 羽衣ミニ通信

フェローホームズ

羽衣相談センター

羽衣相談センターでは毎月、「羽衣ミニ通信」をご利用者に配布しています。内容は介護保険に関連した、生活に関するあれこれや健康の悩み、季節の行事について等、スタッフが交代で様々なテーマで書いています。あるご利用者から「毎月読んでるのよ。」と嬉しいお言葉を頂き、スタッフの励みになっています。今年の3月で180回目を迎え、最初の発行から15年目を迎えました。これからも皆様の為になる情報や、楽しんでもらえるような内容を発信していきます。



過去の
羽衣ミニ通信



メール相談 始まりました！

立川市南部東はごろも 地域包括支援センター

2021年12月1日よりメール相談窓口を開設いたしました。こんな悩み、ご相談ください！

- ・介護保険のサービスを利用したい。
- ・親の介護が不安。
- ・高齢で一人暮らしをしているが生活が大変。

日中に来所できない方や遠方のご家族も相談が容易になります。

多くの方がもっと気軽に相談できる新たな窓口として、このメールが活躍してくれたいと思っています。

また、メール相談開始に伴い包括の事務所は開所時間が9時～19時から9時～17時に短縮されました。

メール相談窓口アドレスはこちら。
tachikawa.hagoromo@gmail.com



フェローデイご利用者作品



宇田川かほり様

金森 耐様



後藤茂子様

渡部一良様

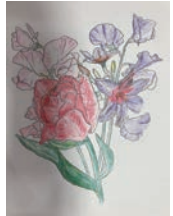


羽衣デイご利用者作品



石黒隆司様

石射 保様



高橋和子様



鈴木まつ子様



みまもる・つながる・ 支援する シルバーピア

「シルバーピア」とは公営住宅に生活援助員と緊急通報システムを配備した高齢者集合住宅の名称です。

各戸に設置された緊急時の呼び出しボタンは生活援助員の滞在室および警備会社のシステムに繋がります。

立川市内には13ヶ所のシルバーピアがあり、恵比寿会ではその内の5ヶ所について立川市より業務委託を受けて管理しています。

生活援助員の視点から各シルバーピアを紹介します。

シルバーピア羽衣 有田みどり



シルバーピア羽衣は立川駅に近く、徒歩圏内に病院、銀行、コンビニ、スーパー等

があり、生活する上でとても便利な場所にあります。建物からは一年を通して富士山がきれいに見え、入居者の方と観賞することがあります。

みなさまが健康で有意義に暮らせるよう、少しでもお手伝いできればと思っています。

シルバーピア柴崎 仲野梓



シルバーピア柴崎は多摩モノレール柴崎体育館駅から徒歩10分、多摩川までは2

〜3分の場所にあります。目の前の柴西公園は桜の名所で、春は窓越しにお花見ができます。夏には毎年ツバメが来ます。卵からヒナが孵り、巣立っていくまでをみなさん温かく見守って下さっています。近年は大型の台風が多くなり、多摩川の増水には冷や冷やさせられることもあります。普段はゆるやかな川の流れを眺めに土手へのお散歩を日課にされている方もいます。自然に恵まれた環境の中、シルバーピアで生活されるお一人おひとりがご自分のペースで穏やかに日々を過ごすお手伝いがこれからもできたら、と思っています。

シルバーピア千歳 小倉彰



生活援助員として同じ屋根の下で日常生活上の様々な生活相談・指導、安否の確認、緊急時の対応、一時的な

家事援助等をしています。生活援助員日記をめぐりながら振り返ると退出者のお顔が浮かびます。在宅で、病院で、介護施設で亡くなられた方、自立での生活が厳しくなり他県に住む息子さんの近くにある介護施設に入居された方、102歳で介護施設に入居された方、病院から退院して帰宅したその日に介護施設に入居された方、それぞれの方との想い出が蘇ってきます。これからも住み慣れた我が家で自分らしく過ごせるように困りごとなどの相談を聞き、適切な支援先に繋げて「みまもる・つながる・支援する」お手伝いをしていきます。

シルバーピア幸町 岡村太



2017年7月に着任しました。始めは解らないことだらけで、福祉の用語について

いても聞いたことがない単語の連続でした。その都度、他の生活援助員やケアマネージャーとして勤務している妻に確認してきました。最近では慌てる事なく落ち着いて対応できるようになりました。

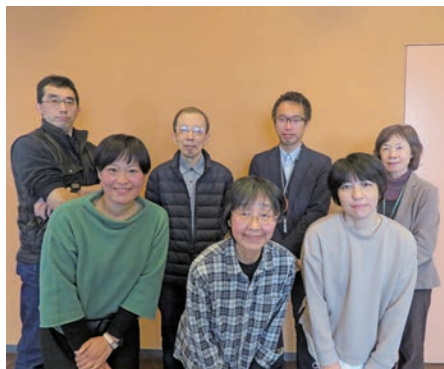
シルバーピア柏町 吉田知佳



生活援助員の仕事は、他の専門性を持った職種（ケアマネ、ヘルパー、ドクターなど）と異なり、みなさまの日常生活の傍らに位置します。スマホの操作について気軽に聞いてくださったり、

クリスマスにシュートレんの焼き具合についてお話ししてくださったりすることが、生活援助員としての私の喜びです。シルバーピア柏町で一番高齢の99歳の先生にご指導いただき、人生で初めて編み物に挑戦したことも良い経験となりました。

日々の会話の中で細やかな気づきができる生活援助員を目指したいです。



月に1度のミーティングで連携を強めています。

恵比寿会5学童の 2022年度が始まります

コロナ感染リスクが、子どもの事業にも大きな脅威になっ
てい
るなかで、恵比寿会の5学童は、2021年度は1日も閉所することなく、事業を継続してまいりました。

2022年度の入所説明会が3月に順次開催されました。狭いながらも事業所内で説明会、近隣の公共施設をお借りしての説明会、オンラインでの説明会等、各事業所の環境を踏まえて開催いたしました。恵比寿会の5学童は、子どもや保護者にとって、安全安心な保育環境の維持を目指すという方針は共通ですが、それぞれの特徴や強みをいかして、2022年度をスタートしております。

一口に学童保育所といっても、どこも同じように思われるかもしれませんが、構成学年や男女比が、地域や年度によって毎年異なります。1年生だけで構成される学童保育所、公立・私立を含めて多数

の学校に、1年〜6年まで構成される児童館のような学童保育所、障がいのある児童を複数受け入れている学童保育所、学校迎えや自宅送りに車の送迎で対応している学童保育所等。どの学童保育所も保護者からぜひ利用したいという希望が多く、毎年申し込みが増えています。定員があるためすべての方に利用していただけないのが、とても残念です。地域に密着した事業を推進する恵比寿会の学童保育事業として、強みを生かして2022年度もスタートしてまいります。



各学童で入所説明会を行いました。



森の子ナーサリー MORINOKO NURSERY

5年目を迎えて

森の子ナーサリーは2018年に企業主導型保育施設として開園しました。初めは8名ほどのお子さんからスタートし、ほとんどのお子さんが、恵比寿会で働くスタッフのお子さんでした。小さなお

子さんがいても働くことができる環境ができ、新たな雇用が生まれ、産休や育休から復帰するスタッフのお子さんも入園していました。新型コロナウイルスの影響もまだない頃でしたので、森の家のご利用者の皆さんとの交流をさせていただき、温かな触れ合いの時間をたくさん共有させていただきました。

それから2年経たないうちに新型コロナウイルスの猛威が世界を騒がせ始め、森の子ナーサリーでも、生活が一変しました。3月は卒園の季節ですが、森の子ナーサリーでは完全な形での卒園式は1回しかできていません。今年も式は中止をし、卒園証書を個別にお渡しする対応をとりました。大勢で集まること、世



ボディーペインティングの様子



電車に興味津々!



障害物遊びの様子

代間の交流を図ることが難しいご時世ですが、嬉しいことに、森の子ナーサリーのテラスで遊んでいると森の家のご利用者の方々が手を振ってくれたり、お顔を出してご挨拶をしてくださいます。子ども達も上を見上げて「おーい」と手を振り、「おばあちゃんいたね」と嬉しそうにお話をしています。

触れ合うことはできなくても、身近に感じることでできる恵まれた環境を保育に活かしながらお子さんの成長を見守っていききたいと思えます。5年目を迎える森の子ナーサリーを今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



HPIはこちら

「森の子保育園」は

「森の子こども園」に

生まれ変わります！

令和4年度より、幼保連携型認定こども園として再スタートを切ることになりました。認定こども園の特質としては、単に幼稚園機能と保育所機能を併せ持つだけでなく、子育て支援機能も必須としていることがあります。そこには、立川市に拠点を置く社会福祉法人恵比寿会としての、「地域におけるすべての子どもの健やかな育ちに貢献すること」、「すべての子育て家庭を対象に良好な育成環境を保証すること」という子ども事業全体の願いが込められています。また、認定こども園に欠かせない大事な視点として、「一体性」と「一貫性」があります。「一体性」には、①保護者の就労の有無にかかわらず、満3歳以上児に等しく質の高い幼児教育を保証するという幼保を超えた一体性、②園・家庭・地域社会という子ども環境全体を視野に入れた一体性、という二つがあります。「二貫性」には、①未就園の状態から円滑な就園につなげる一貫性、②就園から卒園後の発達保障につなげる一貫性という

二つがあります。

これを、子育て支援という観点から捉えると、園・家庭・地域社会という子ども環境全体を視野に入れた一体性を図るためには、家庭や地域社会に対する支援や連携が重要になります。例えば、新型コロナウイルス感染症のような全世界を混乱させるような感染症対策においても園内だけの感染症対策ではなく、正しい情報提供を行い、園と家庭が連携して集団感染を予防することも立派な子育て支援であり、生活の連続性を保証することにもなると考えています。また、「森の子こども園」では、0、1歳から入園する子どももいれば、3歳から入園する子どももいます。家庭によっては3歳でおむつの取れていない子どもも少なくありません。そこで、「森の子こども園」では3歳から入園する子どもがいる家庭に対して、未就園の時からプレスクールを実施し、様々な情報提供を行います。また、子育ての悩みを共有し一緒に子育てをすることにより、円滑な就園につなげてまいります。未就園の時から地域子育て支援を十分に行えば、より円滑な就園につなげ

ることができ、これによって発達の連続性を保証することが可能になります。

こうした在園児家庭への支援や在宅子育て家庭への支援を通じて、生活の連続性や発達の連続性を大事にした子どもを取りまく環境の改善に資することができ、そのことが地域全体の教育・保育の充実にもつながると考えています。

社会福祉法人恵比寿会では、「森の子保育園」から「森の子こども園」に移行する準備と並行して、立川市柴崎町での「しばさきのいえ子育てひろば」の運営なども実施してきました。すべての施設ではたくさんの方の専門家が豊富な知識のある保育者が愛情深く細やかな支援を行っています。小さな子ども達の楽しそうな様子は地域の人々みんなを笑顔にする力があります。これから、認定こども園としての「一体性」や「一貫性」あるいは、子ども一人ひとりの発達や生活の連続性を大切にする繊細さを保ちながら、社会福祉法人としての総合的な機能を発揮するための大胆な取り組みを展開し、多様な子育て支援に真摯に取り組んでまいります。

森の子こども園

MORINOKO KODOMOEN